

問1 北海道やその周辺地域において、樹皮を加工した繊維で織られた「アットゥシ」と呼ばれる伝統的な衣服や、独自のアイヌ語といった文化を継承してきた、法律によって日本の先住民族と明記されている人々を何と呼びますか。 (2026年 埼玉県公立入試 類似)

1. アイヌ民族 2. 琉球民族 3. 大和民族 4. 渡来人

問2 縄文時代における食生活の工夫と、それに伴う住環境の変化について述べた文として正しいものはどれですか。 (2016年 愛知県公立入試 類似)

1. 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ 2. 氷河期が終わり温暖になったことで大型動物が絶滅したため、移動を繰り返しながら洞窟で暮らすようになった 3. 青銅器や鉄器などの金属器を用いて効率的に食料を生産するようになり、外敵を防ぐための環濠集落が作られた 4. 大陸から伝わった稲作が広まったことで食料の余剰が生まれ、それを保管するために高床倉庫が普及した

問3 縄文時代における自然環境の変化と人々の暮らしの関係について、正しい背景を説明しているものはどれですか。 (2022年 山口県公立入試 類似)

1. 寒冷化によって大型動物が絶滅したため、人々は食料を求めて移動を繰り返す洞穴での生活を余儀なくされた。 2. 激しい気候変動を乗り切るために、共同体で大規模な金属器の生産を行い、近隣の集落と食料を奪い合う戦争が日常化した。 3. 温暖化により落葉広葉樹林や照葉樹林が広がり、ドングリなどの木の実が豊富になったため、採集活動が重要な食料確保手段となった。 4. 大陸と陸続きになったことで新たな家畜が持ち込まれ、広大な牧場での放牧を主体とした生活へと移行した。

問4 縄文時代における人々の生活環境の変化と、道具の使用に関する説明として最も適切なものはどれですか。 (2016年 富山県公立入試 類似)

1. 有力な首長が各地に出現し、集落を守るための環濠や、身分を象徴する豪華な副葬品としての土器が作られた。 2. 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。 3. 大陸から稲作が伝来したことで、収穫した穀物を大量に貯蔵するための薄くて赤褐色の土器が広く普及した。 4. 氷河期の影響で大型の獣を追う移動生活が中心となり、獲物を仕留めるために磨製石器が初めて登場した。

問5 縄文時代の遺跡からは、女性をかたどったとされる土偶など、当時の精神文化を反映した遺物が多く発見されています。これらの遺物が作られた目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

1. 稲作が普及し、収穫した米を保存するためのまじないとして作られた 2. 自然の恵みに感謝し、食べ物豊かなことや安産などを祈るために作られた 3. 大陸との交易において、有力者が自分の富や権力を誇示するために作られた 4. 身分の高い人物が亡くなった際、その墓である古墳に副葬品として納めるために作られた

問6 縄文時代の人々の生活や文化について、食料の確保方法とその際に用いられた道具の組み合わせとして最も適切なものを次の中から選んでください。 (2019年 佐賀県公立入試 類似)

1. 大陸から伝わった青銅器や鉄器を使い、大規模な開墾を行うことで、余剰生産物を蓄えるようになった。 2. 狩りや採集で得た食料を煮炊きたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。 3. 本格的な稲作が始まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や、祭祀のための銅鐸が用いられた。 4. 牛馬を利用した耕作や二毛作が広まり、収穫した作物を都市の市場で売買する生活が一般的となった。

問7 三内丸山遺跡の調査結果から推測される、縄文文化の生活や社会の様子について正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 福島県公立入試 類似)

1. 大陸から青銅器や鉄器が伝わり、武器や祭具として使用されることで集落間の争いが激化した。 2. 前方後円墳などの巨大な墳墓が築かれ、広域を支配する強力な王権が誕生していた。 3. 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。 4. 大規模な灌漑設備を用いた水田稲作が普及し、食料を蓄えるための高床倉庫が主流となった。

問8 縄文時代において、人々が定住生活を送る中で作り出した遺物のうち、表面に縄目の文様が見られることが多く、食物を煮たり保存したりするために活用された道具の名称とその特徴として適切なものはどれですか。 (2024年 熊本県公立入試 類似)

1. 高温で焼かれた灰色で硬い、貯蔵用の須恵器 2. 古墳の頂上や周囲に並べられた、人物や馬の形をした埴輪 3. 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器 4. 薄手で赤褐色をしており、文様が少なく実用的な弥生土器

問9 縄文時代に作られた土偶の中には、わざと体の一部を壊した状態で発見されるものがあります。このような特徴から推測される、土偶が作られた目的として最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)

1. 土器を作る技術が未熟であったため、焼成の過程で自然に壊れてしまったことを前提とした観賞用。 2. 大陸から伝わった高度な彫刻技術を模倣しようとして、失敗したものを廃棄した残骸。 3. 集落間の争いにおいて、倒した敵の姿を土偶に投影し、戦勝を記念して破壊する儀礼用。 4. 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。

問10 青森県にある三内丸山遺跡をはじめ、日本各地の縄文時代の遺跡から見つかる「土偶」について、その製作背景や当時の生活の様子を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 香川県公立入試 類似)

1. 王や豪族といった有力者が現れ、巨大な前方後円墳が築かれた際に、死者を弔うために作られた。 2. 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。 3. 本格的な稲作が広まり、収穫した米を保存するための高床倉庫や金属器が普及する中で、魔除けとして作られた。 4. 大陸から伝わった仏教の教えが広まり、寺院の本尊として拝むために精巧に作られた。

問11 青森県にある三内丸山遺跡の調査によって明らかになった、縄文時代の人々の生活や社会の様子として最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 徳島県公立入試 類似)

1. 金属器を用いた農耕が普及し、王の権威を示すために巨大な前方後円墳を築造する社会を形成していた。 2. クリなどの植物を栽培したり、遠方の地域と黒曜石やヒスイを交易したりして、長期間の定住生活を送っていた。 3. 大陸から伝わった稲作を基盤とし、集落の周囲に深い堀を巡らせて外敵の侵入を防ぐ生活を送っていた。 4. ナウマンゾウやヘラジカなどの大型動物を狩るため、特定の拠点を持たずに獲物を追って移動を繰り返していた。

問12 縄文時代の遺跡から多く発見される、当時の人々が定住生活を始めたことを示す遺構について、地面を掘りくぼめた床に柱を立て、屋根をかけた住居を何と呼ぶか答えなさい。 (2017年 茨城県公立入試 類似)

1. 書院造 2. 竪穴住居 3. 寝殿造 4. 高床倉庫

答え合わせ・解説

問1	答え 1 アイヌ民族	北海道とその周辺に独自の文化を築いてきた人々で、2019年に施行された「アイヌ施策推進法」により、初めて法的に「先住民族」と位置づけられました。樹皮を用いるアットウシのほか、サケ漁や狩猟を中心とした生活様式を持ち、自然界のあらゆるものに魂が宿ると考える独自の精神文化を持っています。
問2	答え 1 狩猟・採集による食料確保に加え、土器で煮炊きを行うことで食べられるものが増え、竪穴住居での定住が進んだ	縄文時代には、土器を使って食物を加熱調理（煮炊き）する技術が普及しました。これにより、以前は消化できなかったデンプン質の木の实なども食用にできるようになり、食生活が安定しました。その結果、人々は一箇所に留まって生活するようになり、竪穴住居による集落が形成されました。稲作や高床倉庫、金属器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問3	答え 3 温暖化により落葉広葉樹林や照葉樹林が広がり、ドングリなどの木の实が豊富になったため、採集活動が重要な食料確保手段となった。	地球の温暖化は植生に大きな影響を与え、日本列島にはクリ、クルミ、ドングリなどの実をつける豊かな森林が形成されました。縄文時代の人々は、これらの木の実を採集し、アク抜きなどの加工を施して食用にする技術確立しました。また、入り組んだ海岸線（リアス海岸）が形成されたことで、魚介類も豊富になり、貝塚が作られるほど漁労も盛んになりました。この安定した食料事情が、竪穴住居による定住生活を支える要因となりました。
問4	答え 2 気候が温暖になり動植物の食料が豊富になったことで定住が進み、食料の加工や保存のために土器が作られた。	縄文時代は地球の温暖化に伴い、木の实などの植物性食料や魚介類が安定して得られるようになりました。これにより人々は竪穴住居を作って定住するようになり、硬い木の实を煮てアクを抜いたり、煮炊きをしりするための道具として土器が重要な役割を果たすようになりました。選択肢にある稲作の普及や薄手の土器（弥生土器）は、その後の弥生時代の特徴です。
問5	答え 2 自然の恵みに感謝し、食べ物の豊かさや安産などを祈るために作られた	縄文時代は、狩りや漁、採集による生活であり、自然の状況に食料確保が左右されました。そのため、土偶などの遺物は、子孫繁栄や獲物の増加、病気の回復といった切実な願いを込めた呪術的な道具として用いられたと考えられています。
問6	答え 2 狩りや採集で得た食料を煮炊きしたり保存したりするために、縄目などの文様がついた土器が用いられた。	縄文時代は、氷河期が終わり温暖な気候になったことで、木の実の採集や弓矢を用いた狩猟が盛んになった時代です。採取した植物性の食料を煮たり、保存したりするために土器が作られ、表面に縄目の文様が見られることが多いことから縄文土器と呼ばれます。稲作や青銅器、鉄器の使用は、その後の弥生時代の特徴です。
問7	答え 3 豊かな自然環境を背景に、狩猟・採集・漁労を行いながら大規模な定住生活を営んでいた。	三内丸山遺跡からは、栗の木の栽培や魚介類、獣の骨などが大量に出土しており、自然の恵みを巧みに利用して安定した生活を送っていたことがわかっています。水田稲作や高床倉庫、金属器の利用は主に弥生時代以降の特徴であり、巨大な古墳の造営は古墳時代の特徴です。この遺跡の発見は、縄文人が原始的な移動生活をしていたという旧来の説を覆し、高度な定住社会を築いていたことを証明しました。
問8	答え 3 厚手で黒褐色をしており、低温で焼かれた縄文土器	縄文時代の人々は、定住生活を営む中で土器を発明しました。この土器は低温で焼かれるため厚手で黒褐色になるのが特徴です。煮炊きが可能になったことで、それまで食べられなかった植物の灰汁（あく）を除いたり、固いものを柔らかくしたりして食べられるようになり、食生活が安定しました。
問9	答え 4 病気や怪我のある部分を壊すことで、その痛みを土偶に引き受けてもらおうとする身代わりの願い。	土偶の多くが女性を模しているのは、新しい生命を生み出す女性の力が、大地の豊かな実りと結びつけられていたためと考えられています。また、出土する土偶の多くが破損している理由については、自分の病気や怪我の場所と同じ部分を壊すことで、回復を祈る「身代わり」としての呪術的な儀式に使われたという説が有力です。これは当時の人々にとって、土器作りや土偶作りが生活に密着した切実な信仰の一部であったことを示しています。
問10	答え 2 縄文土器が作られ、狩猟や採集による定住生活が行われる中で、食物の豊作や多産を祈るために作られた。	青森県の三内丸山遺跡は、縄文時代の大規模な集落跡として知られており、当時の生活を裏付ける多くの土器や土偶が出土しています。縄文時代の人々は、弓矢を用いた狩猟や木の实などの採集、漁労によって生活を営んでいました。土偶はこのような自然環境に依存した生活の中で、自然の恵みを祈り、豊かな収穫を願う信仰（呪術）の対象として重要な役割を果たしていました。
問11	答え 2 クリなどの植物を栽培したり、遠方の地域と黒曜石やヒスイを交易したりして、長期間の定住生活を送っていた。	三内丸山遺跡では、大型の掘立柱建物や膨大な量の土器が見つかっており、縄文時代の人々が同じ場所に定住して高度な社会を築いていたことが判明しました。クリの栽培や、北海道・新潟など遠隔地との交易の証拠も見つかっており、従来の「狩猟採集のみで移動を繰り返す」という縄文時代のイメージを大きく覆しました。稲作や環濠集落は弥生時代、前方後円墳は古墳時代、大型動物の追跡は旧石器時代の特徴です。
問12	答え 2 竪穴住居	縄文時代、弓矢の発明や土器の使用によって食料の獲得・保存が安定したことで、人々は移動生活から一箇所にとどまって暮らす定住生活へと移行しました。地面を数十センチメートルほど掘り下げて床にすることで、冬の寒さや夏の暑さをしのぎやすくする工夫がなされており、この構造の住居は弥生時代以降も長く使われ続けました。